

一宮の石場建て

平成 29 年度第 2 回採択

建設地	： 愛知県一宮市	竣工	： 平成 30 年 12 月	敷地面積	： 223.41 m ²
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 116.01 m ²
設計者	： 水野設計室	構造・階数	： 木造軸組・地上 2 階	建築面積	： 88.97 m ²

■提案の概要

- 地方都市の準防火地域内の住宅系宅地に建つ住宅で、構造材や造作材の木材及び壁土に地域の素材を採用し、手刻み・土壁・石場建てによる伝統工法によって、意匠の継承と耐久性向上を目指している。
年間の降雨量の多さに対応するため、雨掛かりとなる妻壁は耐久性を高めるために杉板鎧下見板張り箆子仕様としている他、深い軒庇を採用し、夏の厳しい日射への対応を図っている。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、土塗壁、開放的な床下（石場建て、足固め）を採用している。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、70mmの厚さをもつ土塗壁、45mm厚の杉板による床板張り、近県材（八百津産）の材料の使用、ペレットストーブ等の対策が講じられている。
また、土壁には木質繊維断熱ボード20mmを付加し、さらに天井・屋根及び床にも木質繊維断熱材を使用することで、できる限り外皮性能の向上を図っている。



準防火地域内の市街地の中での伝統的な土壁による真壁・石場建ての外観



構造即意匠の玄関周り



杉板の鎧下見板張り（箆子仕様）の外観



吹抜けのある真壁漆喰仕上げの内観

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□深い軒・庇 

- 南面の濡縁の軒の出：1,810mm
- 西面のポーチの軒の出：2,720mm



深い軒・庇



吹抜けと高窓

□吹抜けと高窓 

ダイニング上部に吹抜けが設けられ高窓による換気促進が図られている。

□土塗壁  

厚さ70mm



土塗壁



板張り外壁

□板張り外壁 

雨掛かりとなる妻壁に鎧板張りによる板壁。

□開放的な床下（石場建て） 

通気・乾燥が見込める開放的な床下工法としている。



開放的な床下（石場建て）



床板張り

□床板張り 

杉板 45mm

□中庭 

ダイニングに面して西側に中庭が設けられている。



中庭



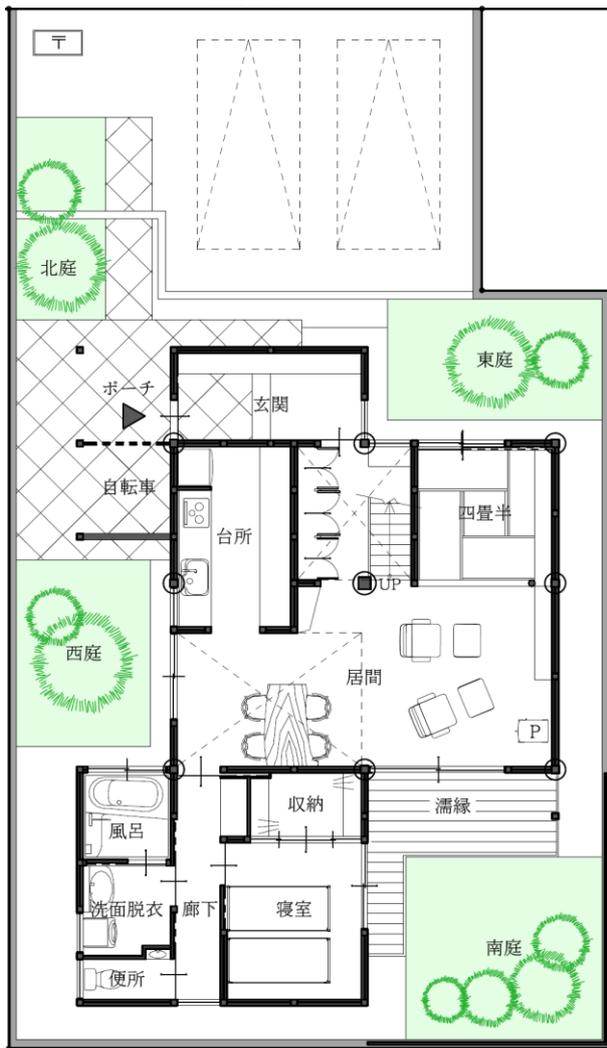
ペレットストーブ

□ペレットストーブ 

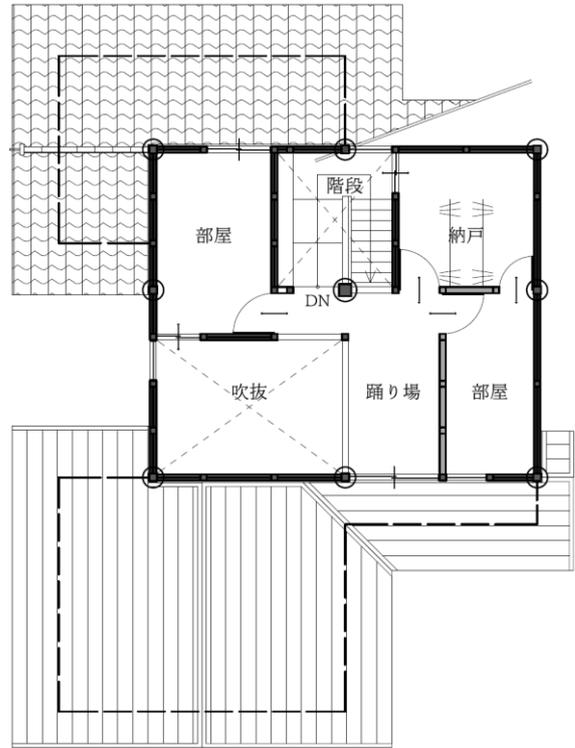
ペレットストーブを採用している。

■エネルギー性能（採択時）

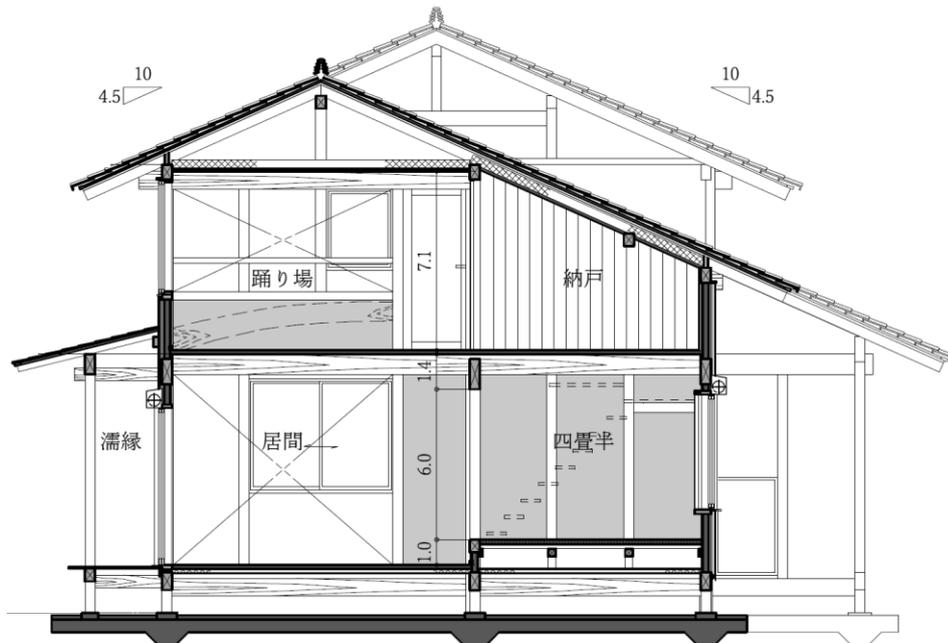
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（愛知県一宮市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87以下	1.11 W/（ $m^2 \cdot K$ ）
一次エネルギー消費量	119.3以下	107.2 GJ/（戸・年）
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.88



1階平面図



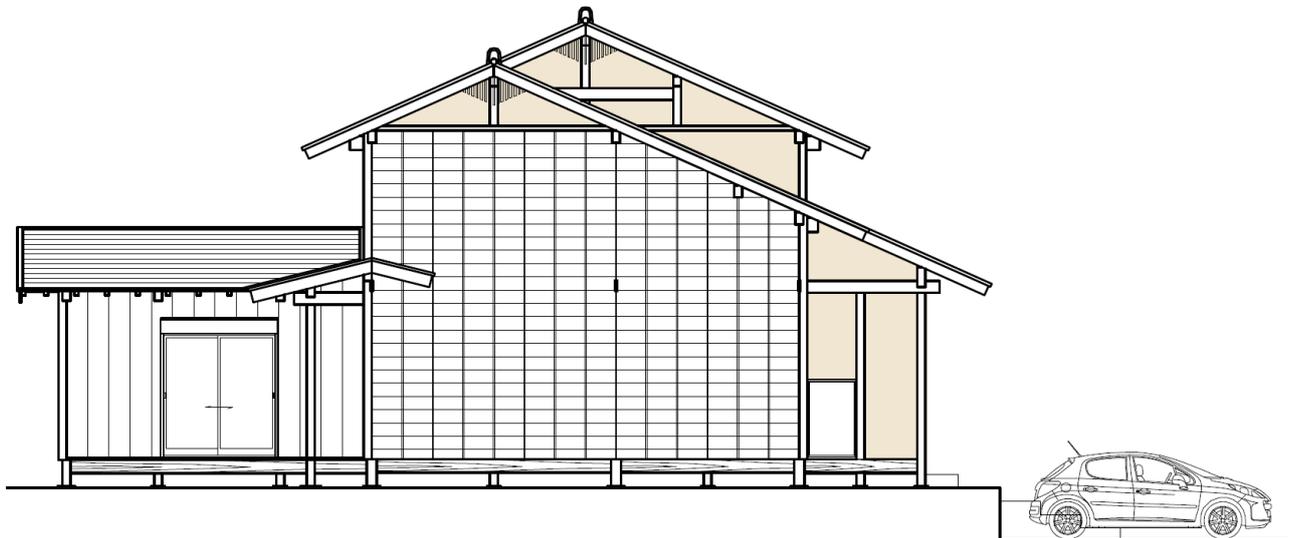
2階平面図



矩計図



北側立面図



東側立面図

■お施主様の声

家を建てることを考え始めたとき、工務店の物件を数多く見て、木をふんだんに使った住宅に興味を持ちました。その後、インターネットで水野設計室さんのホームページを見て、石場建ての構造見学会で知り合い、依頼しました。

居室スペースを少し狭くしても南側に庭を設け、どの窓からも庭が見えるように、庭を分散して配置するプランにいただきました。居間からは、障子に庭木の影がきれいに映っている様子が眺められ、夜の庭の風景もとても美しく、楽しんでいます。

大黒柱は、工務店所有の山で立木を自ら選び、伐採に立ち会わせ頂いたため、大変思い入れがあり気に入っています。

風通しがいいので、入居後は窓の開け閉めを積極的に行うようにしています。

■設計者の声

私の家は、祖父の祖父の時に造られ、私で五代目になります。この家で暮らした中で、日本の気候の下で耐久性を維持し、家族から大切にされ、永く住み継がれていく家こそが価値のある家だと感じるようになりました。

このたび、木の家で暮らしたいというお施主様のご要望に対して、完成後はもちろん、数十年後も木の良さを楽しんで頂ける構造即意匠の伝統工法を採用しました。

田の字の構造に七寸の大黒柱を四面化粧で使う計画です。どの窓からも庭の緑が眺められるよう、また極力空調に頼らないよう、視線と風の通り道に配慮しました。

この事業を通じて、岐阜県の建築士会の中に、気候風土適応住宅部会を立ち上げることができました。今後、県内をはじめ東海地域に気候風土適応住宅を広めていきたいです。